

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：横浜市大熊保育園	種別：認可保育園	
代表者氏名：穴戸 純子	定員（利用人数）：119名	
所在地：〒224-0041 横浜市都筑区仲町台3丁目6-6		
TEL：045-942-9884	ホームページ：	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1971年07月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員：33名	非常勤職員：28名
専門職員	（専門職の名称）：名	小学校教諭：3名
	保育士：36名	幼稚園教諭：23名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	0歳児保育室1室	調乳室
	1歳児保育室1室	乳児用トイレ
	2歳児保育室1室	遊戯室
	3歳児保育室1室	厨房
	4歳児保育室1室	休憩室
	5歳児保育室1室	予備室
		教材倉庫
		事務室
	更衣室	

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

～子どもたちの健やかな成長と幸せを願って～

子どもたちが生まれながらにして持っている「育つ力」「生きようとする力」を十分発揮し、自分を「かけがえのない存在」と感じ自信を持って生きていけるような保育をする。

## &lt;基本方針&gt;

1. 子どもが安心できる環境を作り、一人ひとりの心に寄り添う保育を実施する。
2. いろいろな文化や自然の中で体験を通し考える力、感動する力を育てる保育を実施する。
3. 地域の子どもとの関わりを通し、共に育ちあえる保育を実施する。
4. 一人ひとりの子どもにすべての職員で関わり、保護者に信頼される保育を実施する。

## &lt;保育目標&gt;

- いっぱい遊び、いっぱい考え、いっぱい感動できる子

＜保育姿勢＞

1. 子どもが安心できる環境を作り、一人ひとりの心に寄り添う保育を心がけます。
2. いろいろな文化や自然の中での体験を通し、考える力、感動する心を育てます。
3. 地域の子どもとの関わりを通し、ともに育ちあえるように見守ります。
4. 一人ひとりの子どもにすべての職員で関わり、保護者に信頼される保育を心がけます。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜横浜市大熊保育園の特徴的な取り組み＞

- 子どもの最善の利益を考慮し、人権やプライバシーを守ることを重要視しています。
- 子ども一人ひとりの個性を大切に、応答的なかわりをし、子ども主体の保育を推進しています。
- 給食委託業者と連携をはかり、食育を大切にする保育を行っています。
- 保護者に保育を理解してもらうよう工夫を凝らして取り組むとともに、保護者の悩みなどに丁寧に対応するよう心がけています。
- 職員全体で子どもたちを育てる姿勢が保護者に伝わり好評をいただいています。
- 地域との交流を積極的に取り組み地域で子どもを育てています。
- 保育の質の向上のために職員の連携と情報の共有、学びを大切にしています。
- 公立保育園の役割として、セーフティーネット、地域の子育て支援、ネットワーク事業に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年04月01日（契約日）～ 2022年02月07日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

【横浜市大熊保育園の概要】

●横浜市大熊保育園は、昭和46年7月1日に開園し、設立50年を迎える歴史ある保育園です。横浜市営地下鉄仲町台駅から徒歩7分の住宅街の中に位置し、周辺は緑豊かな自然環境に恵まれています。園の建物は、鉄筋コンクリート造り2階建てで、広い園庭が特徴的であり、子どもたちが伸び伸びと元気に遊ぶ姿が印象的です。

定員は0歳児から5歳児まで合計119名ですが、全年齢児定員外で入所しており、現在、132名の子どもを預かっています。

●保育サービスは、乳児・幼児保育、障害児保育、延長保育、一時保育、園庭開放、交流保育、給食体験、離乳食体験、育児講座、出前保育事業を実施し、地域の子育て支援に積極的に尽力し、地域に貢献しています。園の特徴の1つに、敷地内に丘陵傾斜を利用した上下二つの園庭があり、土と芝生の園庭は斜面でつながっています。園庭には、プール、鉄棒、滑り台、ブランコ、砂場、ジャングルジム等の他、柿や杏等の樹木が植栽され、子どもたちは樹木や木の根っこを飛び越え、木登りをする等、自然の産物で遊ぶ機会は創造力、体力を養い、子どもたちは健やかに成長しています。

◇特に評価の高い点

1. 【子どもの育ちと学びを支える保育】

横浜市大熊保育園（以下、大熊保育園という）では、子どもを尊重した保育の基本姿勢を「素敵な保育」としています。園には学び合う風土が定着しており、園内研修で「こんなこと素敵よね!」と語り合い、「素敵な保育」を職員が共有し、保育に実践してい

ます。語り合いの研修で挙げられる保育は、事例集として綴られています。事例集には、「段ボールを使った制作でおうち、びっくり箱、ロケット等子どもたちがアイデアを出しながら順次発展する制作活動」、「午睡前、子どもたちが布団に入る時間『誰が上手に寝られるかな〜』優しい、ゆったりとした声かけが魔法の言葉かけのようで素敵」等があります。この「素敵な保育」を指導計画に位置づけたカリキュラムに「保育ウエブ」があります。「保育ウエブ」では、子どもたちが最初に思いついたアイデアに順次関連するアイデアを出しながらアイデアを蜘蛛の巣状につなげて図表示にし、子どもたちは、図表示されたアイデアから更に思いを広げて制作します。制作完成品の機能・でき具合を試し、思いを形にする達成感につなげています。実際に、5歳児は最初のアイデア「夏」からアイデアを「船づくり」につなげて船を制作しました。試みでは、段ボールで作った水に浮べて乗ると沈んでしまい、次は、牛乳パック、ペットボトルと、順次船作りに挑戦し、何回も乗っている内にテープが剥がれて壊れ、それでも完成を目指し、乗っても沈まない船を完成させました。職員は、試行錯誤に考える過程、何度も失敗から学ぶ子どもたちの成長を温かく見守り、自主性・主体性を援助しています。

## 2. 【食育活動の工夫・取り組み】

大熊保育園の食育目標は、「楽しく食事をする中で食事に関心を持つ」、「自分の身体に必要な食べ物に興味を持つ」、「栽培など様々な経験を通し命の大切さを知る」と掲げ、食育計画に沿って積極的に食育活動に取り組んでいます。5歳児の活動例では、春にトウモロコシ、じゃがいも、小玉すいか、枝豆の種まき・苗植えから栽培を始め、夏の収穫では調理師と一緒に下ごしらえから調理に参加し、収穫したじゃがいもはポテトフライにして給食メニューに加えました。また、栽培物の調理体験の他、調理師による魚の三枚おろし実演等、実物を見て触れ、食への興味・関心及び命の大切さを知ることにつなげています。3色食品群表では栄養バランスを学び、調理室前の食育ボードに食材のカードを貼り、「今日のメニュー」の栄養バランスを周知しています。「パクパクだより」は保育室に掲示し、食材調べにより子どもが食に関心を持つよう工夫しています。さらに、調理室前にポストを設置して子どもと調理員の「お手紙ごっこ」を通して、給食の感想やメニューのリクエストのやり取りをしています。食への興味・関心を様々な工夫、取り組みにより促し、楽しく食に接する機会は、子どもたちの未来を生き抜く力につながっています。

## 3. 【地域交流への積極的な取り組み姿勢】

大熊保育園は、地域との交流を例年、活発に実施しています。養護学校高等部の受け入れ、高校生の実習受け入れ、デイサービス訪問、特別養護老人ホーム訪問、おはなし会等で交流を図り、地域に対する子育て支援では、育児相談、園庭開放、交流保育、育児講座、一時保育、出前保育、出張育児相談赤ちゃん会等を実施しています。今年度は、新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍という）であり、大熊保育園では、そのような状況下でもでき得る地域交流を思案しました。年長児交流の手紙交換、地域の方への暑中見舞いを送付し、「文書交流」を行いました。給食体験では、地域の親子を迎え、栄養士と保育士が食に関するテーマに保護者と話す機会を作り、個別の質問に直接答える等、実施後のアンケートでも栄養士と直接話げできたことに喜びの声をいただいています。また、地域親子を迎えての交流保育、芋堀りを通じてJA農協と交流し、保育園広場でのおひさままつりや、出張保育も実施しています。園では、コロナ禍においてもこれまでに近い、でき得る交流は何か、を考え、実行する積極的な姿勢は、高評価に値します。さらに、大熊保育園は、都筑区の保育資源ネットワーク構築事業として横浜市の活動を行い、都筑区内の保育・教育施設の子ども同士の交流や、職員研修の企画・実施、園児のイベント参加の調整、地域のイベントの手伝い等を行い、地域に貢献しています。

◇改善を求められる点

1. 【単年度、中長期事業計画の実施に向けた取り組みについて】

大熊保育園では、単年度、中・長期事業計画（令和2年度～令和5年度）が策定されており、これらの計画への取り組みは公立保育園として際立っています。今年度の事業計画では、「子どもが主体的に遊び込める楽しい保育園」、「安全保育」、「コロナ禍においても日中の子どもの様子や職員を保護者に知ってもらう機会をつくる」、「保護者に相談しやすい、話しやすい保育園」等を挙げ、中・長期事業計画令和4年度、令和5年度には、「IT（コドモン）の活用」、「リスクマネジメント」、「Zoom活用」等が盛り込まれています。単年度、中・長期事業計画には、今回の第三者評価調査で挙げた7項目に呼応した対応策が既に挙げられてもおり、事業運営上の課題も認識されています。それらの改善策は計画的に実施されつつあり、この取り組みが今後も計画に沿って進捗していけることを期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 横浜市大熊保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

これまでも子どもの主体性を大切にしたい、共感と応答的な保育を職員一同大切にしてきましたが、第三者評価を受審するにあたり、職員と勉強を重ねる機会を多く持つことができました。

保育やマニュアルを見直すことで、良いところを再確認し、そして更により良いものに作り上げる過程は、職員と何度も話し合いを重ねる必要があり、それが質の高い保育への取り組みにつながりました。その取り組みが、結果として、風通しの良い職場作りにつながる等、充実した時間となりました。

コロナ禍でできないことはたくさんありましたが、工夫を凝らして行ってきたことが、保護者の皆さまにご理解いただけたことを感謝しています。

同時に課題もみえましたので、職員一同、気持ちを一つにして、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

<評価後取り組んだ事として>

1. 保育の理念等がよくわからないとのアンケート結果だったため、評価者から教えていただいた漢字一文字を職員間で出し合い、『和』として、園だより、園外の掲示板、コドモン配信で周知しました。それを見た方から「素晴らしいですね」と何度も絶賛していただいています。

2. 対面での懇談会を開催しました。また、Zoom懇談会の練習をしました。保護者と練習会も開催しました。

3. ビデオ上映をしました。Zoomでも流します。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり